議事概要

会議の名称	令和４年度第１回三田市総合教育会議
開催の日時	令和４年12月27日（火）10時00分～12時00分
開催の場所	三田市役所本庁舎302ＡＢ会議室
出席した委員の氏名	森哲男市長、鹿嶽昌功教育長、大野裕己教育委員、三木尚美教育委員、 中上之仁教育委員、中野文雄教育委員
出席した職員の職及び氏名	〈事務局〉 奥子ども・未来部長、松下学校教育部長、横溝子ども未来室長、西垣戸子育て応援室長、浅野学校教育部次長、外岡学校教育部次長（学校再編担当）、横溝地域共創部市民協働室参事（文化スポーツ振興担当）、大西すくすく子育て課長、藤田幼児教育振興課長、嘉土文化スポーツ課長、上野学校再編課長、田中学校教育課長、久後幼児教育振興課参事、宮城学校教育課副課長、西すくすく子育て課係長、増田幼児教育振興課係長、鈴木学校教育課係長、田村すくすく子育て課事務員
傍聴人の人数	９名
議題	①三田市における中学校の部活動の地域移行について ②三田市立幼稚園再編計画の進捗状況について ③学校再編にかかる取組状況について ④三田市子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査結果（速報）
会議の概要	P2～13
公開･非公開の区分	公開
使用した資料	本日の次第、座席表、出席者名簿 【資料１】三田市における中学校の部活動の地域移行について（案） 【講演資料】学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン（案）【概要】 【資料２】三田市立幼稚園再編計画の進捗状況について 【資料３】学校再編にかかる取組状況について（フラワータウン地区） 【資料４】三田市子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査の結果について（速報） 【資料４参考資料】三田市子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査票
連絡先	子ども・未来部　子ども未来室　すくすく子育て課　　電話（079）559－5079

会議経過

１．開会

【横溝室長の司会により開会、配付資料の確認等】

【傍聴者９名】

【議事進行を森市長に交代】

【市長挨拶】

２．議題

①三田市における中学校の部活動の地域移行について

森市長：まずは、協議事項として、「三田市における中学校の部活動の地域移行について」から説明をお願いいたします。

〈兵庫教育大学　森田教授の講話〉…　講演資料

森市長：森田先生ありがとうございました。それでは、事務局から説明をお願いいたします。

〈田中課長から説明〉…　資料１

森市長：それでは、先ほどの森田先生の講演と、ただ今、教育委員会事務局からの説明がありましたが、委員の方々からご質問ご意見等がございましたらお願いします。

大野教育委員：最初に、ご講演いただいた森田先生、貴重な情報、本当にありがとうございました。市の方向性として４点の目指す姿や方向性、確かにこのとおりだなと思ったところです。枠組が変わるという話もありましたし、それから、国から６月に出た検討会議の報告では、多様な方法や複数の道筋といった言葉もあったので、本当に市で考えて取り組まないといけないと強く思ったところです。その中で、市で検討している案の資料１を頂きましたが、新しい枠組みにしていくためにも実態把握が大事であるというお考えもこのとおりだと思います。ここで質問ですが、方向性、目指す姿の４点というところはしっかりと定めて実態把握していく中で、それを三田でやっていくためには、より具体的な価値であるとか目標というところを関係者が共有することがとても大事だと思います。市としてはこのあたりを今のところどのように進めていくのか。推進委員会の中で助言とか取り組む課題の精査があると思うのですが、関係者間の目標共有は非常に大事な側面があると思うのでお聞きしたいです。連携という意味でも、やはりお互いが何を持っているか、お互いの強みは何かを確認し目標共有することが大事であることは研究上も指摘されているところです。

森市長：大野委員から、関係者間における目標の共有が非常に大事だとありましたが、事務局いかがでしょうか。

浅野次長：今、大野委員からご指摘を受けましたことについては、地域移行で具体的に何を目指すのか、要するに教育の価値は一体何かというご質問と受け取りました。一番大切なことにつきましては、地域の子どもたちは、やはり学校を含めた地域でしっかりと育てていくのだということを共有しまして、その中で生徒の望ましい成長を保障していく。そのために地域の持続可能で多様な環境の一体的な整備が必要であるということと、やはり地域の実情がございますので、それぞれの地域の特徴を生かしながら、スポーツ・文化芸術活動の最適化を図りつつ、体験の格差を少しでも解消していくということを目指して取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

中野教育委員：森田先生、ありがとうございました。とても整理をしていただいて、頭の中がすっきりしたなと思いました。今まで学校が担ってきたそういう部分、いわゆる子どもの教育をしていく、当然学校が担っていた活動が、子どもたちの成長を考える立場から大きく考え方が広がり、大きく転換していくことになります。どのような混乱が起きるかについてしっかり整理しておかなくてはいけないと感じています。

一つはやはり今、大野委員がおっしゃったように、目標を共有化することが大事な点だと思います。そして、三田の子どもたちをどのように育てていくのか、行政として育てていくのかを明確にそれぞれが持たないといけないと思います。こうやったらよいという手段の検討をしていくことは当然大事なことですが、その大前提として、これまでの三田の子どもたちの教育の成果と、そしてさらにどのようにそれを伸ばしていくのか、そのために今ある教育資源をどのように活用するのか、その点をしっかりと整理していかなくてはいけないのかなと思います。スポーツ21が三田で展開される中で、様々な地域でのスポーツ活動も盛んな部分が出てきていると思います。そういう部分をやはり、しっかりと評価し、もう一度学校とスポーツ21、そして地域と、行政とが整理をした考え方を持つことが大事であると思います。一番てっぺんには子どもの成長を目的に置き、それから持続可能な生涯スポーツとしての三田市の施策というものがなければいけないと感じました。

その中で、一番危惧しているのは、学校が担ってきた部分をどのように地域と共有できるのか、同じ視点に立つというのはとても難しいことだと思っております。当然クラブチームとか、そういうものがありますが、目標にしていることは学校の部活動とは少し違っている部分をどういうふうにうまくすり合わせていくのか、そういう共通理解が本当に必要な取り組みになってくると思います。それがなければ、いくら形をつくっても、地域で起こった様々な課題がもう一度学校に戻ってくることになると思います。そうなると地域移行していくことが本末転倒になってしまわないかと、そんなことを感じました。ですから、今、事務局が示されたように両輪でというところを、どう具体化し

ていくかいうことがこれからの取り組みの大事なことだと感じました。

森市長：ありがとうございます。事務局のほう何かありますか。

浅野次長：大切な視点であると受け止めております。やはり大切なことは、「子どもたちのために」ということを中心に置きながら、しっかりと連携をしていきたいと考えておりますので、推進委員会にご意見を伺いながら進めてまいりたいと考えております。

森市長：森田先生、何かございますか。

森田教授：先ほどの実態把握の観点ですが、いわゆる様々な関係者、つまりは利害関係者として、具体的には子ども、保護者、あと地域の人など様々な方が部活動にはあります。そういう意味では、目標共有をする前に私の意見ですが、全員を集めてではなくて、学校の先生、保護者というそれぞれの形で丁寧に説明の仕方を変えないといけないと思います。同じことなのですけれども、やはり学校の先生がこれまで大事にしてこだわってこられた部分、そこを踏まえると不安をすごく持っておられる。一方、保護者も、先の見えないことに対しての不安がある。そういう意味では、この目標共有のためにどんな場を設定して、どんな方法でアプローチしていくのかということは、タイミングを見て推進委員会で、慎重に考える必要があると思います。また、もう１点は、どこでもよくやる手段ではありますが、アンケートについても慎重さが必要だと思います。やはり意見をもらうだけでは多様なものが出てくるので、こういう方向でやるという大きな枠組みが決まってから、その中でアンケートなど何かをやっていく必要があるなと思います。

最後に、恐らく人材的な問題も含めて、学校の先生方に、小中学校も含めてなのですが、いわゆるスポーツの普及に携わりたいという思いがある先生方が、休日のところでも可能な範囲で関わっていける制度をつくる必要があると私は思います。もちろん強制ではなくて、今すでに学校の先生が何らかの形で携わってほしいという教育としての枠組みはありますので、そこも人材も含めて考えていく必要があると思っています。

森市長：ありがとうございます。それでは、これから始まるということなので、事務局としましても、国や県の動向に十分注意をしながら、学校教育と社会教育が連携して取組を進めていただきたい。先ほど頂きました森田先生からの具体的なアドバイスも踏まえて、しっかりと情報収集や調査を進めていただきたいと思っておりますので、今後、具体的な取り組みを進める中で、またこの会議でいろいろとご議論をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

②三田市立幼稚園再編計画の進捗状況について

森市長：それでは、次に、報告事項の１つ目「三田市立幼稚園再編計画の進捗状況について」、事務局から説明をお願いいたします。

〈西垣戸室長から説明〉…　資料２

森市長：事務局から、現在検討しております認定こども園の通園バス、それから工事期間中の保育の場所、１号認定子どもの預かり保育、そして給食について、現在の検討状況について説明がありましたが、ご質問ご意見がありましたら、よろしくお願いいたします。

中野教育委員：ご丁寧に意見を聞いていただき、それぞれが一緒になっていくという思いの中で、それぞれの考えがすり合わされていっているように思いました。

１つ目に、一番気になるのが通園する時間です。基準を決められる中で、どのように子どもたちに負担がない通園ができるのか、やはりそこの部分が子どもたちを中心とした意見としてそれぞれ検討委員会の意見として出されているわけですので、このあたりをもう一度よく最後まとめていただけたらうれしいなと思います。

２つ目に、３ページにあります検討委員会での主な意見ということで、いわゆるバス通園により保護者や園教諭との結びつきが減ってしまうということですね。やはり地域の中でそれぞれ大事な子どもの教育や子育てを担ってきた幼稚園の存在という部分がここにも気持ちとして表れているのかなと思います。やはりいろいろな意味で保護者の方は、何かあれば園の先生に相談し、見ていただいているという安心感の部分があるのではないかと思いました。そういうことを考えると、保護者、園教諭との結びつきが減ってしまうという部分についての考え方については、そうにはならないことをしっかりと示していただくことが大事になってくるかと思います。小学校入学、中学校入学も同じだと思います。幼稚園という部分はその最初の集団生活をしていく入門期に当たるので、保護者のそういった不安を軽減できるように丁寧な話合いをしていただけたらうれしいと思いました。

また、場所についてもいろいろ検討していただく中で、本当に子どもたちが普段と変わらない保育、教育が受けられる環境をつくれるように動いていただいていると感じました。

西垣戸室長：通園負担につきましては、どうしても保護者の方の利便性、自宅の近くまでバスが来てほしいという考え方と、バスに乗っている時間は短い方がよいという考え方の両方があり得るところだろうと思いますが、なかなか両立させるのは難しい部分でもあろうかと思います。そういった観点から、乗車時間の目安として、おおむね50分とお示しをしたところではございますけれども、これについても、もっとさらに短くならないのかというようなご意見が検討委員会の中でも出ているところでございます。それに当たりましては、保護者の方のご協力もそういった趣旨をご理解いただくことが欠かせません

ので、引き続きお話をしながら、できるだけ短くなるような運用になるように努力をしてまいりたいと考えているところでございます。

２つ目の、保護者と幼稚園との接点が少なくなるのではないかというご懸念についても、私どもも同様に考えているところでございます。こうした登園の、あるいは退園の機会を活かした交流の仕方もありましょうし、それ以外の方法もあろうかとも思っているところでございます。

先ほどのバスの関連で言えば、例えば、バスで乗るときにはある程度何か所かに集まっていただいて、そこで乗降車するような形が取れれば、保護者間との結びつきや条件にもよりますが、もしバスに園の先生が乗っていた場合には、そういった交流等も含めてできる余地もあるかなど思ったりもします。いろいろなアイデアがあろうかと思いますので、引き続き検討委員会の中でもアイデアを出し合いながら、よい結論、方向性が出せるよう検討してまいりたいと考えております。

三木教育委員：予定されている２つの園を改築される間、志手原幼稚園の改築中は小野幼稚園で保育を行う方向性ということで、同じ幼稚園でということですけれども、広野幼稚園の方は広野小学校の教室を使わせていただくということですね。幼稚園と小学校という違いがあると思いますが、小学校にすることによって、小学校との交流的なものも入ってくるので、それもいいのかなと思います。

一方で、小学生の運動場の遊具は小学生向けに作られていて園児にとっては少し大きいのではないか、そのため安全面はどうなのか、一日部屋を借りられて過ごすと思いますが、行動範囲なども含めどのような過ごし方をするのか、など教えていただけますでしょうか。

藤田課長：広野小学校では、９月、10月、11月と３か月間お借りし、保育をさせていただく予定になっております。

先ほどありました運動場の遊具の件についてですが、幼稚園の園庭につきましても、工事エリアがおよそ３分の１程度使えない状態になる程度であり、遊具もほぼ使えるような状態でございます。運動場においては、現在も小学校と幼稚園との交流をしていただいていると思いますので、そういった中で遊具については、幼稚園教諭が見守る中、使用して保育は行えると考えております。

あと、教室等の考え方については、広野小学校からお借りする部屋がパソコン室と、今１年生が使っている教室の計２室をお借りできるよう調整させていただいているところでございます。また、遊戯室の代わりになるところとしては体育館があります。体育館も小学生が使っていない時間帯や半面しか使っていない時もあります。安全性が確保できる状態であれば、協力し合いながら使っていく中で、「互いが理解する中で教育というのは進めていかないといけない」と校長先生からもお話をいただいておりますので、そういった中で進めさせていただければと思っております。先ほどの園庭、運動場につ

いても同様に使わせていただく中で、変わりなく安全に保育ができるようにしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

鹿嶽教育長：推進委員の皆さんといろいろとご相談しながら進めていただいていると感じています。既にもう十分ご検討いただいていると思うのですけども、西認定こども園は令和６年からスタートになりますと、来年入ってくる４歳児自身も５歳児の時にもう一緒になると思います。今現在も幼稚園間の交流というのはされていると思うのですけども、やはり来年の４歳児が５歳児になったときに一緒になるということを踏まえながら、西認定こども園の関係も、広野、藍、本庄の各幼稚園の園児たちとの交流は、本当により深めていっていただきたいなと思います。一緒になった時の子どもたちのストレスをできるだけ少なくする意味でも、そういった交流に力を入れていただき、子どもたちがスムーズにスタートできるように、また、認定こども園自身も使用開始時に落ち着けるように思います。検討されているかと思いますけども、そういった点を十分留意しながら進めていってほしいなと思ったところです。

久後参事：先ほどご意見いただきましたように、認定こども園になった際に、子どもたちがスムーズにお友達と知り合ったりしながら、安心して認定こども園に通えるように、今年度から既に交流を進めております。先日２回目の交流があったのですけれども、やはり子どもたちが回数を重ねるごとに友達との親しみが増して、楽しそうに遊んでいる姿があったと幼稚園の職員から報告いただいております。令和５年度につきましても、既に幼稚園の職員で年間計画を立てまして、細やかな交流ができるように進めております。

中野教育委員：園児の交流の件は大変大事なことだと思います。それぞれの幼稚園が行ってきた地域の特色を生かした保育の内容が、今後一緒にすることによってどのようになるのか。やはり「１＋１＝２ではなく３になる」という考え方は大事だと思います。その内容についてですが、保育の中身として今後のすり合わせ、あるいは特色ある保育の内容を考えていく上で、大枠として、やはり西と東は違ってくると思います。ベースが違いますので、そのあたりはどのような方向を考えておられるのか、今後の見通しを聞かせていただけたらと思います。

久後参事：それぞれの地域によって特色もございますし、地域の方々に関わっていただいているような活動もございます。それぞれの園で、これからどんな保育をしていくのか、何を大切にしていきたいのかを職員間でも計画をつくりながら検討しております。これまでの園のよさと、地域が広まりますのでそれぞれの地域のよさとか、人材を生かした保育をしていきたいと計画を進めております。

森市長：今、各委員のほうから頂戴しましたいろいろなご意見、観点を踏まえまして、これから

も幼稚園の再編については丁寧に進めていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

③学校再編にかかる取組状況について

森市長：次の報告事項ですが、「三田市立学校再編にかかる取組状況について」、事務局から説明をお願いいたします。

〈外岡次長から説明〉…　資料３

森市長：ありがとうございます。今の説明につきましてご質問、あるいはご意見等ございましたらよろしくお願いします。

鹿嶽教育長：前回の総合教育会議の中で、小規模化が進んでいる小学校も含めてこれから考えてく中で、今回はフラワータウン地区、まずは各地域のコミュニティ・スクール、運営協議会、それぞれの学校に深く関わっていただいている保護者の皆さん方、地域の皆さんで組織しているものなのですけども、そこにご意見等を聞く中で、様々な意見がありました。そういったことから、今回、富士小学校と弥生小学校の間で再編の地域協議会を設置して、公の場で今度は正式に皆さんのご意見を聞きながら、意見を取りまとめていきたいと思っています。

先の検討会の中でも、本当に様々な意見があって、全てが賛成というものでもないとも聞いております。いろいろな課題がある部分を整理していかないといけないのですけれども、これからは公の地域協議会の中でそういった課題を出し合いながら、地域としての一定の方向を定めていただきたいと思っています。前回の上野台中学校と八景中学校の時もそうでしたけども、地域協議会のご意見のまとめを基に市としての方針を最終的に決定して再編を進めていくことになろうと思います。できれば令和５年２月頃には委員の皆さんに集まっていただき進めていきたいと思っております。

大野教育委員：今まであったものを再編していこうということですから、関係者の方々、いろいろな思いや、葛藤もある中で、より生産的な方向ということを考えていただいていることにまず敬意を表したいと思います。その中で、やはり今後大事にしていただきたいのは、今、国の教育の方針もそうですが、多面的な評価のもと資質、能力の３本柱と言われる力を組織的に子どもに保障する必要があります。再編を考える際には、幅広い力をどう育てるためにどのような環境が必要かという方向づけのところを前面に置いて、関係者で共有していただき、今回の再編の中で地域の受皿というものはどうあるべきかというようなお話になっていくとよいのではないかと思います。意見を出していただいた方の中にも「前向きに」という言葉がありましたが、そういった意味で非常に大事にな

ってくる点かと思っています。

外岡次長：大野委員がおっしゃったように、これから求められる教育というのは、やはり子ども同士で意見を重ねたり、またその中で解決の糸口を見つけたり、そういう日常的な教育活動が必要不可欠であると思っております。また、クラス替えができる環境ということもこれまで説明をずっとしてきているのですけども、やはり人間関係というのは様々な時期に様々な出来事が起こります。そういった中で、クラス替えをすることで新しい環境の中で、その子が能力を発揮したり、自分自身を取り戻すであったりとか、そういったことの機会が必要ではないかと思っているところです。今回この再編を進めるにあたって、これからの子どもたちの未来を拓けるような、そういった機会にできたらと思っております。

中上教育委員：私の周りにも、学校に行けていない不登校の子がいます。やはり子を持つ親としてクラス替えができていることは大変うれしいことだと思うし、クラスの中で学校に来れてない子どもがいたら、担任の先生も負担が大きいので、クラス替えができて子どもがやはり毎日学校に行ける環境をつくることが大切だと思います。

少しでも意見が出ている中で統合のメリットを、もっともっとできることはやっていきたいと思います。また、最近、子どもの不登校の低年齢化が進んでいると聞いているので、子どもたちが毎日学校が楽しいと思える環境づくりをしていってほしいです。

外岡次長：統合のメリットというお話がございました。現在、弥生小学校では、生活科とか総合科目の授業で、県立人と自然の博物館を非常によく活用されています。また、富士小では、共生教育また人権への取り組み、また英語といった取り組みもございます。両校のよいところを、統合により集めていきたいと思っております。

また、これまでにも、小中一貫校についてのご意見もあったのですが、現在、三田市は第３期の教育振興基本計画に基づいて、小中一貫した教育ということで取り組みを進めております。そういった取り組みの環境が富士中校区内で整うというところもございますので、そういったメリットを最大限に生かしながら、よりよい教育がそこで展開できたらと考えるところです。

中野教育委員：確実に一歩進めていっていただいていると思いました。まず、コミュニティ・スクールの地域で今それぞれの学校がやっていることを大事にしていただきながら、地域の方の意見をまず聞くための準備として、これからの地域協議会という一つの大きな枠組みになるわけですので、その中でより具体的ないろいろ話がされるのだろうと思います。その前段階のその会の中の主な意見の概要として、やはりここの中で大切なことは３つの柱ではないかと思いました。まず、よりよくなるという統合のメリットの部分をしっかりと示していくことが１つの柱。次に、学校の再編はまちの活性化になるのだと

いう部分が大事な２つ目の柱。そして小中一貫教育を行っていく視点を先に持つのであれば、そのあたりをしっかりと見据えて行っていくことが３つ目の柱。単に２つの学校を１つにするのだという話ではなく、新たなものをつくっていくという考え方になっていくのだと思いました。今度の小学校再編地域協議会というものがどのように進められていくのかに期待したいと思いました。

外岡次長：今後、地域協議会の場で様々なご意見をお持ちの方もおられると思いますので、それを真摯に受け止めながら、できるだけご理解いただけるように、統合のメリットであるとか、まちの活性化といったところも踏まえながら丁寧に説明をし、またご意見をいただけるように進めてまいりたいと考えています。

森市長：それでは年明け以降になりますが、フラワータウン内で富士小学校と弥生小学校の学校再編地域協議会が始まりますので、今、各委員からいただいた意見を十分生かしていただいて、地域の方々と課題を共有しながら、丁寧な説明、意見交換をよろしくお願いいたします。

④三田市子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査結果（速報）

森市長：最後の報告事項の「三田市子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査結果（速報）」について、事務局から説明をお願いいたします。

〈大西課長から説明〉…　資料４、資料４参考資料

森市長：速報の時点でございますけれど、今説明がありましたが、内容につきましてご質問ご意見がありましたら、よろしくお願いいたします。

鹿嶽教育長：前回の５年前の調査に続く今回の調査ということで、回収率が非常に上がったということは、それだけ関心が高いということだと思います。前回は小学校４年生からが対象でしたが、今回は小学校５年生からが対象になった点についても、子どもにも聞くアンケートとしても適切な対象学年だったのかなと思っています。

今回の調査で、非常に気になったのが、資料４の「３相対的貧困率」の箇所の貧困中央値や相対的貧困線、前回150万円に対して、今回209万円ということで、いわゆる貧困と言われている世帯の所得が上がっているというふうに見えます。このコロナ禍の中で生活が本当に楽になっているのかと思っていたのですけども、その理由として考えられることですが、P13ページにある【就労状況】の箇所から、ご夫婦共に働いている方や正社員もパートもそうですが特に母親の働く率が上がっている。また、働いていない方が減っているということは、やはり１人で働いているとなかなか家計のやりくりができな

くなっている世帯が増えているのではないかと思いました。もし家族構成の人数が変わっていないとしたら、平方根で除した所得の額というのは当然高くなるわけです。最初、結果だけ見ていたときには、三田の子育て世帯は所得階層が上がったのかなという印象を受けたのですけども、実はそうではないのではと個人的には分析をしたところです。そういった考え方でよろしいのでしょうか。

大西課長：ご指摘のとおり全体的には相対的貧困率は下がった、それから貧困線も前回よりも金額が増えているといったところが、単純に生活が楽になったのではないというふうに受け止めるべきかと思います。P14の【コロナの影響】の箇所の１行目に書いてございますように「４人に１人世帯収入が減っている」、減っているがゆえに、しっかりと働く必要が家庭の中で生じているのではないかといったところで、支出が増えた家庭、変化がなかった家庭といったところも表れているのではないか、夫婦共に働かざるを得ない世帯が増えている可能性があるとも考えられます。そういった家庭におかれてもコロナの影響を含めて、今後は分析をする必要があると考えているところです。

森市長：教育長のご指摘があった点も踏まえて、今後正確な、多面的な分析をぜひよろしくお願いしたいと思います。

中上教育委員：ヤングケアラーのことについてお聞きします。小学生で全体の約90人に１人ということですが、三田市の場合6,000人近い子どもがいると思うので、その割合で考えた場合、50人超の子どもがそういう状況になっているとも推測できます。調査結果を精査、分析していきますということですが、精査、分析だけではなく、今後、市としてどのような対応を考えているのかお考えをお聞きしたいです。

横溝室長：今回、保護者の方の回答率が半分程度での今回の結果となりました。小学生が90人に１人、中学生143人に1人と書いていますけれども、実数にすれば、半分の回答率で小学生、中学生とも10人程度ぐらいでした。委員のおっしゃるような推論も成り立つかなというふうには思っています。ただし、ほかの質問項目も含めて、全体的にクロス集計し分析をかけていかないと、この点だけで判定するのは少し難しいとも思っています。

　次に、ヤングケアラーに対する支援対応ですけれども、今は学校との連携の下、早くから支援の必要な子どもを見つけて、要保護児童対策地域協議会などで対応を図っております。ただし、それでは分からない子どももいるので、今後はさらに連携を強化していきたいと思います。また、実際に発見したときには、ヤングケアラーは、子どもの問題でなく大人の問題なので、その大人側の問題、介護とか障害の支援に結びついてないご家庭として支援していく方向で具体な対策を考えていきたいと思っております。

中野教育委員：速報ということで、今、大まかな傾向だけが示されたと理解しました。そのよう

な中で、まず、回答率がかなり増えているのは、やはり期待の表れの部分だと思います。これを回答することで、何かがあるのではないかという部分への期待の表れがこの数字に表れていると推測しました。

今のお話を聞かせていただく中で、子どもの「進学希望」で「まだ分からない」と答えた中学生が４人に１人いるという結果にものすごく大きくショックを受けたところです。そのような中で進学の見通しとして、全てが大学というわけではないのですけれども、進学希望を「大学まで」と考えている子どもが37%まで落ちてきている。やはりそういう夢を持っている、将来を自分でこうしたいと思っている子どもがどんどんと減っているのではないか、その点をなぜだろうと考えていく視点が一つ大事かなと思いました。

それからもう一つは、コロナの影響のところですけども、やはり「不安、いらいら、夜遅くまで起きている」子どもたちがたくさんいるという結果からクロス集計の中で分析しその手だてを考えていく、また、学校とそれぞれの関係機関との連携の中で考えていくことがとても大事であると感想を持ちました。決して数字だけで判断してはいけないと思いますので、十分各学校現場で子どもの様子についていろいろと聞いていただく中で進めていただけたらうれしいなと思いました。

横溝室長：私どもも、これらの数値が全てではないと思っております。回答いただいていない方の中にあるお困りごとなどをいかにして拾っていくか。その一つの方策として、委員がおっしゃった学校であるとか、今概ね終えております支援者ヒアリングなどでも把握しながら、今後も学校現場や教育委員会と連携を深めながら対策を取りたいと思います。

三木教育委員：先ほどの貧困率の結果から、収入が減って働く家族が増えたのではないかというお話がありました。それによって資料４ページ１３の「子どもとの関わり」のところの「３時間以上」が減少し、「１～２時間未満」が多くなってきているということですので、やはり働く家族が増え、なかなか子どもとの関わる時間を取れないご家庭が増えているのかなと思います。ですから、やはり、短い時間でも子どもの何か困り事やヘルプのサインに気づけるようにご家庭でも配慮が必要なのかなというふうに思います。

あと、ヤングケアラーですが、最近、全国的にも注目され取り上げられている課題です。そういう経験をした子どもが大人になってから感じているようなことを読んでいますと、子どもがそういう状況に置かれているときに相談するところが複数あったらよかったということを言われていました。やはり、子どもが当事者として助けを求めたり、相談したりする場所があることは大事かなと思います。今でも子どもが相談するところはあるのだと思うのですけれども、ヤングケアラーという状況に対してその困り事を、どこに言っていいのか子どもにとって少し分かりにくかったりするのかなとも思います。そういう相談を分かりやすくできるような手法があったらいいのかなと思いますので、よろしくお願いします。

森市長：１つ目に「子どもとの関わり」の時間の確保と、あと、２つ目に「子どもが相談する窓口」というのがありましたが、何か事務局でありますか。

横溝室長：１つ目の、「子どもとの関わり」はおっしゃるとおりで、やはり子どもの成長の上で、ご家庭との関わりは欠かせないので、ご家庭では短時間でも濃い時間を過ごしていただきたいと思っています。その上で、子どもの放課後であるとか、土日を含めた長期休暇などの放課後の居場所づくりに関しては行政側でしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

先ほどの相談先の話ですが、今、支援者ヒアリングを通して子ども食堂の方にもお話をお聞きしておりますが、子どもたちがいろいろなことをつぶやけるような場を豊かにしていって、そういった場からも声を拾えたらなと思います。学校の先生に相談するのも一つだとは思いますけれども、まずは、子どもの人間関係が複層的で豊かであればあるほど相談しやすい、つぶやきやすいのかなというふうに考えています。学校でも家庭でもない、第三の居場所と言われますが、そうしたサードプレイスを充実し増やしていきたいと考えております。

森市長：それでは以上で、本日予定しておりました議事の全てを終了いたしました。皆様方の活発なご意見いただきましてありがとうございました。それでは、事務局にマイクをお返ししたいと思います。

横溝室長：皆様におかれましては長時間にわたり熱心にご議論いただきまして、ありがとうございます。それでは、本日の会議はこれをもちまして終了とさせていただきます。
お疲れさまでした。ありがとうございます。